
白金の錬金術師 姫君の里帰り

チルノ・トレバー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

白金の鍊金術師 姫君の里帰り

【NNコード】

N8306N

【作者名】

チルノ・トレバー

【あらすじ】

のんびりと、軍の高官として転生生活を送っていた私は、いきなり神の世界に呼び出される。そして私は、神の力で元の世界に黄泉歸る事に・・・作者は京都出身ではありません。その為、主人公の口調に違和感があるかもしれません。後、この小説には原作崩壊や独自設定が含まれます。ご注意ください。

え？ 黄泉帰り？（前書き）

どうも皆さんはじめまして、チルノ・トレバーです。

拙い文ですが、頑張つていいくのによろしくお願いします。

え？ 黄泉帰り？

田が覚めると、神の世界に居た。

・・・あれ？ 私、死んでないよね？

普通に寝てたよね？ どういう事？

「おお、田が覚めたか！」

私が状況を飲み込めずに、混乱していると、聞いた事がある声が聞こえて来る。

「・・・ゼウス、何で私が神の世界に居るか教えてくれない？」

私は、普通に寝ていた私が、何故ここに居るかをゼウスに聞く。

「なに、今日はお主にサプライズをなー！」

「サプライズ？」

「お前さん、寝る前に『元の世界に戻りたい』と言つていただろう？ その願いを叶えてやるつー！」

「・・・はー？」

この神様は今何て言つたの？

「だから、お前を元の世界に戻してやるつーと言つたのだ！」

「いやいや……眞ひてる事は、分かつてゐるから。そつとじやなくて、なんていきなりそんな事になつたの？」

「いや……な。お前さんは、我輩がやらかしたせいで、死んでしまつたからな。お前さんの望む事は、出来るだけ叶えてやりたいのだ」

「ゼウス……」

「うやら私は、今まで勘違いをしていたみたいだ。

ゼウスが、こんなに私の事を想つてくれるなんて……

「ただ……いくらか問題が有つてな」

「……え？」

「いくらか輩でも、同じ時間軸に送る事は出来んのだ

……まあ、別に同じ時間軸に送れないのは、しょうがないか。

「どれ位ずれるの？」

「最低でも、十年はずれるだらつなあ……

「はああー?」

「それ過ぎでしょー?」

「それに、一時的とはいえ、死んだ人間を同じ世界に生き返らせるからな。世界に異常が発生するかもしれん。滞在出来る期間は、二週間程度だと思ってくれ」

「一週間つて……短いなあ。

・・・って、あれ？

「私が今居る世界の私の存在はどうなるの？」

「私が居なくなつたら、この世界は無くなつちやうんじや……

「安心するがよいーお前さんが、元の世界に戻つている時間は、いくらあの世界に居ても経つ時間は、五時間程度だ！この世界は消える事は無い！」

「そうなんだ……でも、死人が生き返つたら、大きな騒ぎになるんじやない？」

花開院家に妖怪扱いされた挙句、滅されるなんて、シャレにならないしね。

「記憶を多少弄つて、旅に出ていた事にすれば、問題は無い。しかし…間違つても、家族に会つてはいかん！」

「どうして？」

「記憶操作は、家族には効果が無いのだ。もし、いきなり自分の娘が生き返つたらどう思つ？」

「・・・分かった。家族には会わない様にする。でも、他の人には会つても良いんだよね？」

「ああ、それは問題無いだろ」

「じゃあ、地の口調に戻した方が良いよね」

私は、軽く咳払いをして、口調を変える。

「ねえゼウス、ちょいお願いが有るんや。聞いてくれへん?」

「一。」

いきなり口調が変わったつむぎ、ゼウスは驚いていたみたいや。

まあ、当然やね。

「つむぎの口調でしゃべるのせ、初めてやかい。」

「・・・願い事とは?」

「生前の姿を、生前の姿に戻せへん?」

「生前の姿にか?」

「そやよ。流石に今の姿やと、違和感有ると思つやかい。後、特典の魔法とか羽とかも外して欲しいんや。必要あらへんやかいね」

「身体能力や、鍊金術はどうする?」

「元々、特典無しやておんなんじ位の身体能力は有つたさかい問題あらへんよ。鍊金術についても、必要無いから預かって」

「しかし、本当にこいつのか？何か有つたら……」

「問題あらへんよ。うちにはこれが有るさかい」

「ない言つて、うちは札を取り出す。

「うちは陰陽術を使えるさかい、問題があらへんよ。伊達に、花開院家当主直々におせて貰つてへんさかいね」

「せめて武器は持つて行け！」

「それも、問題あらへんよ。戦つ事になつても、陰陽術で十分やし、それに武器は有るさかいね」

「どにだ？持つておらんではないか？」

「まあ見ててよ。・・・『じとかたぞうけい』『じゆがたぞうけい』『じゆがたぞうけい』』二口用宗近』」

うちが片手で印を結びもつて術を読むと、一つくし日本刀が手元に現れた。

「どない？他かて生み出せるよ~」

「いや・・・十分だ。そろそろ飛ばすが良いか？」

「ああ、そや。元の世界行つてゐ間は細川扇奈つて名乗つてもええ？」

「ああ、構わんぞ。．．．では、飛ばすぞ！」

ゼウスがそない言わはった瞬間、目の前が真つ暗になる。

「楽しんで」…」

その言葉を終っこ、つちは意識を手放ぞした。

え？黄泉帰り？（後書き）

どうでしたか？

次は主人公設定です。更新をお待ちください。

それでは。

主人公紹介（前書き）

今回は主人公設定です。

独自設定が有ります。

誤字、脱字が有るかもしません。ご注意ください。

それではどうぞ。

主人公紹介

主人公設定

ほそかわせんな
細川扇奈

今作の主人公。元細川家当主跡取り。

C V 白石涼子

年齢は25歳程度。

所在地

無し。（既に彼女は死んでいるため）

容姿

身長は158cm程であり、髪は黒色で膝辺りまで有る超ロングのストレート。

バストは88cm有る。

服装は和服を着ており、その上に細川家の家紋が入った羽織りを羽織っている。

性格

温厚だが飄々としている。

戦闘中も[冗談を言いながら戦う。

口調

京都弁で話す。

武器

特殊な素材で出来た鉄扇『黒夢』、無数の札、液体の入った鉄製の筒を所持している。

戦闘方法

鉄扇術と、細川流陰陽術を駆使して戦う。

細川流陰陽術は、花開院流陰陽術を扇奈本人が独自に改良した物で、花開院流陰陽術を大きく上回る術が多数存在するが、非常に習得が難しく、現在の所使えるのは扇奈本人と、彼女の使役する式神のみである。

備考

幼い頃から素晴らしい才能を發揮し、僅か5歳で次期当主となる事が確定する。

その後も才能を發揮し続け、細川家誕生以来の天才と呼ばれる。

20歳頃には、花開院家と共に、或いは単独で妖怪相手に戦い、妖怪からは「夜桜姫」と恐れられ、花開院家などからは「細川の姫君」

と信頼された。（と言つても、妖怪への態度は馴れ馴れしいほどには好意的で、実際細川本家には妖怪が結構な数居た。）

しかし、その高過ぎる才能故に、危険視した羽衣狐によつて死の呪いを掛けられてしまつ。

その五年後に、扇奈は一度田の生を終える。（羽衣狐の掛けた呪いは、十年後に亡くなるという物だつたが、神が間違つて扇奈を殺してしまつた為、呪いの効果は消滅した。）

一度田の生は、鋼の鍊金術師の世界で、名前をマリア・コマンチと変え、国軍中将としての生活を送つていた。

ある時に神に呼び出され、神「元の世界に戻してやる」と言われる。扇奈は、貰つた特典を全て神に返し、元の世界に向かい物語が始まる。

主人公紹介（後書き）

どうでしたか？

次は物語に入ります。更新をお待ちください。

それでは。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8306z/>

白金の錬金術師 姫君の里帰り

2011年12月26日22時49分発行